

「CSR報告書2005」の発行について

平成17年5月31日
北陸電力株式会社

当社は、このたび、環境保全活動の年次報告書として発行してきた「環境報告書」を「CSR報告書」と改称し、「CSR報告書2005（社会・環境活動報告）」として発行しました。

この報告書は、これまでの環境保全活動に加え、コンプライアンスの徹底やステークホルダーとの対話活動など、企業の社会的責任（CSR）に関する内容全般について、より詳しくわかりやすくまとめたものです。

なお、1994年に「環境アニュアルレポート」として創刊して以来、今年で12回目の発行となります。

「CSR報告書2005」の概要（詳細は別紙を参照してください）

- 1．報告書の特徴
- 2．2004年度のおもな取組み
- 3．2005年度CSR行動計画

以上

「CSR報告書 2005」の概要

1. 報告書の特徴

(1) 名称

「環境報告書」を「CSR報告書(社会・環境活動報告)」と改称しました。

(2) 内容・構成

これまでの環境保全活動に関する内容を中心とする構成から、コンプライアンスの徹底やステークホルダーとの対話活動など、社会性に関する内容を加え大幅に充実し、企業の社会的責任(CSR)に関する内容全般についてより詳しくわかりやすくお知らせするため、社会編と環境編の2部構成としました。

(3) 発行時期

2004年度の活動実績をより早くお知らせするため、従来より約1か月前倒ししました。

(4) 用紙

グループ会社の(株)ジェスコが当社オフィスから回収した機密文書と、森林管理のため伐採された間伐材を原料に製造したリサイクル用紙で制作しました。間伐材の活用は、健全な森林づくりに貢献するとともに、CO₂吸収による地球温暖化防止効果も期待できます。

2. 2004年度のおもな取組み

(1) 社会編

A. コンプライアンスの徹底(P10~11)

北電グループをあげて法令・ルールおよび企業倫理の徹底に取り組んでいます。2004年度は、個人情報保護法の施行等に対応し、個人情報保護の一層の強化を図るため「個人情報保護規程」を制定し、漏洩防止のための社内体制や個人情報の取扱いに関する基本的事項を定めました。

B. ステークホルダーとの対話活動

お客さま、株主・投資家、地域社会および従業員などステークホルダーの方々との対話活動を通じ、そのニーズ・期待にお応えするために努めています。

a. お客さま満足の向上(P12~17)

- ・良質な電気の安定供給、充実したサービスの提供に努めています。2004年度は、度重なる自然災害により停電し、お客さまに多大なご迷惑をおかけしました。特に7月の福井豪雨の際には、懸命な停電復旧作業にあたりるとともに、多くの従業員がボランティアとして災害復旧活動に取り組みました。
- ・2005年4月からお客さまの電気料金値下げを実施し、経営効率化を積極的に進め、低廉で良質な電気をお届けする努力を続けています。

b. 社会からの信頼の獲得(P19~33)

- ・原子力発電における安全・安心確保のため、品質保証活動、定期検査、防災訓練や環境保全対策、情報公開、地域活動に取り組んでいます。2004年度は、美浜3号機の配

管破損事故を受け、志賀 1 号機で、第 9 回定期検査の際に代表部位の肉厚測定を行い、問題のないことを確認しました。また、現在試運転中の志賀 2 号機では、9 月に非常用炉心冷却系（ECCS）の原子炉注水試験を公開しました。

- ・広報・広聴活動、地域との共生に向けた活動、教育支援などにも取り組んでいます。2004 年度は、福井豪雨および新潟県中越地震災害で罹災された方々を支援するため、従業員から義援金を募り寄付するとともに、新潟県中越地震の際には災害復旧部隊を現地に派遣し、避難所の仮送電を行いました。

c. 従業員満足の向上（P34～35）

- ・従業員の能力発揮・伸長のため、「自ら学ぶ」を基本とした教育・研修、適切な人事異動・業績評価を行うとともに、職場の活性化に取り組んでいます。2004 年度は、4 月に育児休業制度を改定し、休業期間の延長など内容の充実を図りました。

(2) 環境編

A. 環境管理計画

- ・2004 年度環境管理計画では、地球温暖化防止、循環型社会形成に向けた事業活動の推進などについて具体的な目標を設定し、その目標達成に向け全社一丸となって取組みを推進しました。
- ・また、当社を取り巻く情勢の変化を踏まえ、2010 年度を目標年とした「中期目標」と本年度目標を合わせた 2005 年度環境管理計画を新たに策定しました。
- ・地球温暖化対策および CSR の観点から、「高効率ヒートポンプの普及拡大」「お客さまへの省エネ情報の提供」「次世代層を対象とした環境イベントの開催」などの施策を追加し、環境との調和を目指した企業活動を展開していきます。

B. 地球温暖化防止（P50～55）

- ・CO₂削減の自主目標（1）を掲げ、排出量抑制に最も効果的な原子力発電の推進を中心に、新エネルギーの普及開発や省エネルギーの推進に取り組んでいます。
- ・2004 年度は、志賀 1 号機（出力 54.0 万 kW、BWR）の安全・安定運転に努めた結果、販売電力量 1kWh あたりの CO₂ 排出量（原単位）は 0.436kg（前年度比 0.026kg）となりました。
- ・志賀 2 号機（出力 135.8 万 kW、改良型 BWR）は、2006 年 3 月の営業運転開始をめざし、2005 年 4 月より試運転を行っています。同 2 号機による年間 CO₂ 抑制効果は、北陸三県の年間 CO₂ 排出量約 3,000 万 t の 1/4 程度に相当する約 800 万 t と見込んでいます。
- ・12 月に、日本温暖化ガス削減基金（2）へ出資参加しました。京都メカニズムを活用する本基金への出資により、地球規模での温暖化防止と開発途上国等の持続可能な発展にも貢献するとともに、約 50 万 t の CO₂ クレジットの獲得が見込まれます。

（1）2010 年度における CO₂ 排出原単位を 1990 年度比 20%削減（0.33kg-CO₂/kWh 程度）

（2）当社を含め日本国内の企業 31 社および政府系金融機関 2 行が共同で出資、設立したアジア初の炭素基金

C. 環境保全（P56～61）

- ・発電所の環境保全対策に取り組むとともに、電力設備の建設などにおいては、景観や生態系など周辺環境に十分配慮した設備形成に努めています。

- ・能越幹線（2005年4月運用開始）の建設にあたっては、低光沢処理を施した鉄塔や電線を採用し景観に配慮しているほか、ハクチョウの電線などへの衝突防止対策を講じています。また、ルート周辺で生息する猛禽類保護の観点から、営業地に近い鉄塔工事箇所では工事期間に制限を設けるなどの対策を講じました。

D. 循環型社会の形成（P62～65）

- ・発電から送変電・配電の過程で発生する石炭灰等の廃棄物については、積極的に再資源化、再利用を進めた結果、全体のリサイクル率は93%となり、1998年度以降90%以上を維持しています。
- ・2004年度は、記録的な集中豪雨や度重なる台風の上陸により、例年の約4倍もの流木が水力発電所ダムに流れ込みましたが、分別・回収を行い、木炭ボード、木炭及び堆肥などに加工して有効利用に努めた結果、全量をリサイクルすることができました。
- ・2004年度から、オフィスから排出されるごみの有効利用を図るため、本店ビル内で「オフィスごみゼロの推進」を開始しました。2005年度からは、この取組みを全事業所に拡大することとしています。

3. 「2005年度CSR行動計画」（P2～3、8）

2005年3月、北電グループが、日々の事業活動の中で取り組むCSR活動の具体的な分野・項目を明確化するため、「2005年度CSR行動計画」を策定しました。コンプライアンスの徹底や環境保全への積極的取組みに加え、お客さまや株主・投資家、地域社会などとの対話を一層深め、ご意見・ご要望にお応えし、持続可能な社会の実現に向けて、今後とも、信頼され選択される企業グループを目指します。

その推進のため、社長以下の役員をメンバーとするCSRに関する各委員会活動や、各部署に新設したCSR推進リーダーを通じた情報共有化などに努めていきます。

[2005年度CSR行動計画]

コンプライアンスの徹底	・グループ各社による行動規範の制定 ・個人情報保護の徹底 など
環境保全 （地球温暖化防止 ・循環型社会形成）	・CO ₂ 排出原単位の低減 ・石炭灰や紙のリサイクル ・省エネPR・環境イベント開催 など
お客さま満足の向上	・停電件数の減少 ・お客さまからのご要望の把握 など
株主・投資家満足の向上	・会社説明会の開催 ・経営目標の達成 など
社会からの信頼の獲得	・原子力の安全・安心の確保 ・社会貢献活動の推進 など
従業員満足の向上	・教育受講・資格取得の推進 ・時間外労働低減・健康増進 など

以上